# る あのときの常呂・写真館

### (1975年) 昭和50年5月7日 町営ふ化場第1回カラフトマス放流式

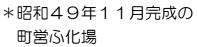
▶この放流式とふ化場の建設について、北海道新聞の記事(昭和50年5月9日付)から抜粋・編集して紹介します。●「…町営ふ化場は福山地区に昭和49年11月末に完成しました。鉄骨造りのD型ハウスで幅8m、長さ93m。ふ化室と養魚池、他に導水施設・管理事務所が設けられ、年間1千万粒のふ化能力を持ち、48年11.12月に道さけ・ますふ化場北見支場から281万1千粒のカラフトマス発眼卵を運びました。放流式は、午前10から道さけ・ますふ化場、網走支庁、水産試験場など関係者100人が参列、福山小学校の児童15人も小旗を手にして集まり、町長のあいさつ、式典終了後、ふ化場そばの常呂川支流幌内(ホロナイ)川に集百匹を放流、拍手で小さな稚魚の安全を祈りました」

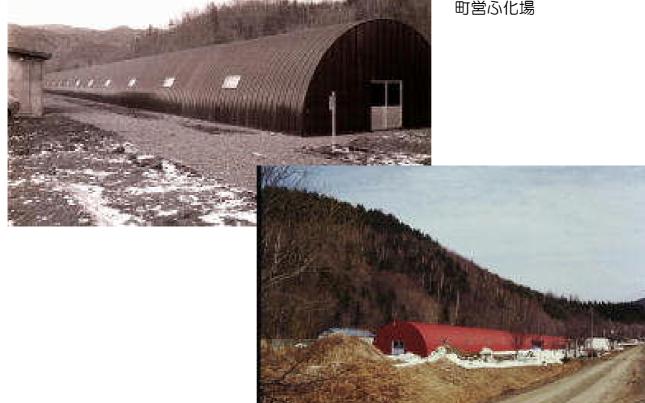












▲この4枚の写真は、平成4年5月12日に行われたカラフトマスの稚魚放流式です。 この年の4月から休校となった福山小学校の元福山小学校児童を含む川沿小学校の児童 が幌内川に放流しました。詳細は次ページに添付した「広報ところ」6月号の〈まちの 話題〉をご覧ください。



### まちの話題

続けられ、

同

校は、

いました。

福山

## 福 の稚魚放流式 山小学校で最後

マスの稚魚の放流式が五月十二日 福 山小学校では最後となるカラフ

なかには別れを惜しむ児童が、 築に合わせて校舎内 フトマスの飼育を始 稚魚は旅立ちました。 事に泳いで行くのを れぞれの思いを乗せ る児童もいるなど、そ てきてね」と声をかけ からで、 たのは、 たり、「元気で帰っ つまでも見守って 福山小学校でカラ 校舎の改 昭和六十

ておりますが、その後も元児童など に幌内川で行われ 手によって校内のいけすで飼育が 今年四月より休校となっ 稚魚はスクスクと育って ました。 育が、 平

に激励の言葉を読み上げ、 を持ち、近くの幌内川へ向かいました。 童達の手で五千匹の稚魚が次々と川 ツや「元気で育って帰ってきてね」 の児童二十一人が、稚魚の入ったバケ へ放流されました。 元気でがんばってね」と書いた看板 幌内川では、校長先生の挨拶に続 当日は絶好の五月晴れに恵まれ、元 児童会々長の中島裕君が、 小の児童三人を含む川沿小学校 その後児 稚魚



# 横路知事 ふるさと訪問で

常呂川

河口遺跡を視察

無

行われ、 ラッコの彫 5 いました。 0 遺跡を視察しました。 オホーツク文化までの出土品を見 常呂川河口遺跡では、 北 横路知事の 網地区を二日間の日程で視察す オホーツク文化の遺物 最終日の五月七日は常呂町 に大変興味を示して 「ふるさと訪問」が 縄文文化か (熊や

実践表彰を受けました。 クな教育活動として、網走管内教育 に大きなイケスが作られまし 成二年には、 地域の素材を生かしたユニー カラフトマスの 飼



と懇談しました。 の家でオホーツク文化について、 化関係者や管内の博物館の学芸員等 の視察に続き、 さくに話しかけていました。 と皆さんも学者になりますね」と気 ょう」「遺物が出てきたときは楽し いでしょう」「この仕事をし また、横路知事は常呂川河口遺跡 その後、 作業している人達に「大変でし 発掘している状況を視察 栄浦の道立少年自然 ている 文

文化の研究施設をつくりたいと話し 一要性を強調し、 横路知事は、この席で北の文化の 将来道立のアイヌ